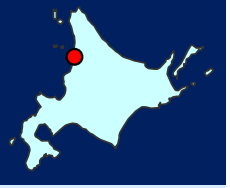
第3種 苫前漁港
（北海道苫前町）

苫前地域マリンビジョン策定（モデル地域）

苫前（とままえ）地区特定漁港漁場整備事業計画

留萌圏域
流通拠点



現状と課題

・近年、ホタテガイ成貝の出荷量増加・輸出拡大等により、養殖用地及び岸壁が不足しており、非効率な作業を余儀なくされている。また、野天での積込や排水による港内水質の汚濁等の衛生管理上の課題が生じている。
・新規着業者の増加による船外機船の利用が増加しているが、低天端岸壁が不足しており、高天端岸壁での作業を余儀なくされ、作業軽労化の課題がある。

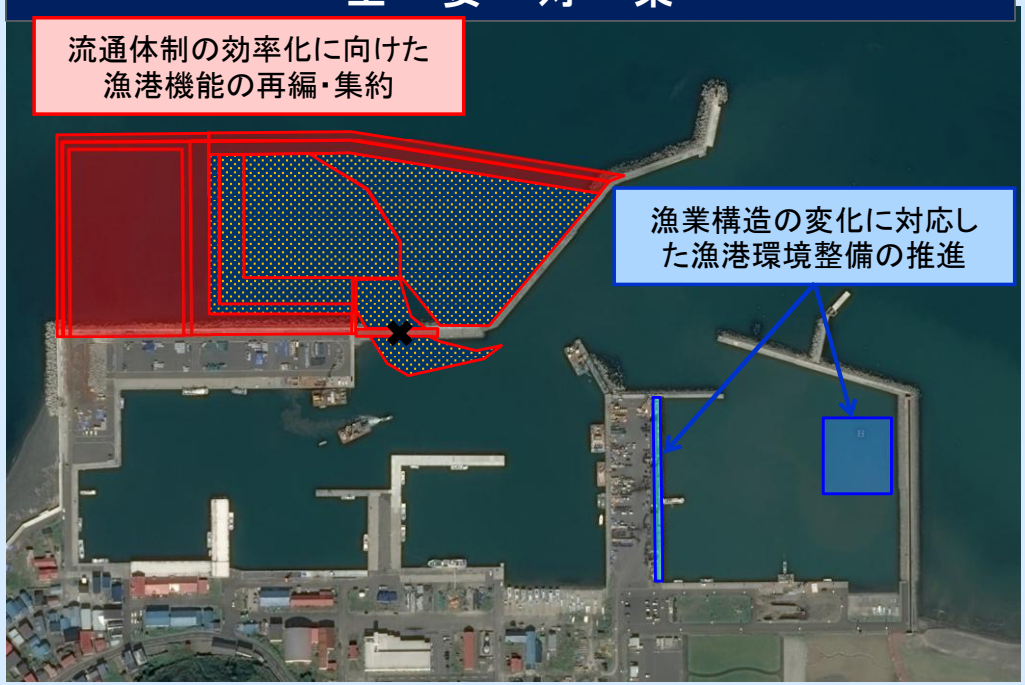
港　勢　（R5港勢調査）

登録漁船：77隻
利用漁船：180隻
（内、外来漁船：103隻）
属地陸揚量：4，232トン
属地陸揚金額：20．0億円
主な魚種：ホタテガイ、ニシン
組合員数：46人

◎苫前漁港の役割

・道内外のホタテガイ生産地を支える種苗生産拠点
・武蔵堆周辺海域を主漁場とする道内外のイカ釣り漁業、小型底びき網及び沿岸漁業の流通拠点
・韓国向けホタテガイ成貝の活出荷による輸出の安定供給基地

主　要　対　策



主な整備方針

・沖側に埠頭を整備し、ホタテガイの蓄養殖拠点としての機能向上を図る。また、屋根付き岸壁の整備により、陸揚げから出荷まで一貫した衛生管理が可能な環境を整備する。併せて、近隣の力昼漁港のホタテガイ成貝出荷作業を苫前漁港に集約することで、地域全体の品質向上・流通体制の効率化を図る。
・低天端岸壁の整備により、作業軽労化・安全性の向上を図る。併せて、ナマコやウニなどの天然資源減少への対策として、一時蓄養の取組に資する蓄養水面を整備する。

基本事項

全体事業費：96．5億円
事業期間：R6～R15

主要な対策①：漁港機能の再編・集約

野天におけるホタテガイの出荷作業

漁具保管用地の狭隘状況

主要な対策②：漁業構造の変化に対応した整備

船外機船による
高天端岸壁での操業状況

現地蓄養試験状況